

大阪市立十三中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

全国学力・学習状況調査（以下、「学力調査」と表す）やチャレンジテストにおいて、本校の各項目平均正答率は大阪府の平均にも及ばず、学力の向上は喫緊の課題である。ただ、部活動や各種の積極的な取組により、生徒の学習環境や意欲は向上しつつあり、校内施策の充実を図ることにより、結果に結びつけることが必要である。

道徳心・社会性の面でも、職員が、自己肯定感を持つ生徒が増加しつつあると感じており、さまざまな教育活動の一層の充実を図る。

健康・体力の面では、毎日決まった時刻に就寝・起床を行う生活習慣の定着が不十分であると言わざるを得ず、「分権型教育行政システムの推進」に則り、区役所と連携してその改善を図る必要がある。

中期目標

【視点 学力の向上】

○平成28年度チャレンジテストにおける平均正答率を府レベル以上にする。 (カリキュラム改革関連)

○中学校3年生での英検3・4級程度の英語力を有する生徒の割合を65%にする。〔現中2 43%〕 (カリキュラム改革・グローバル化改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

○学校で認知したいじめについては、解消に向けて組織的に対応している割合を100%で維持する。 (マネジメント改革・学校サポート改革関連)

○学力調査における、「学校の規則を守っていますか」の項目における肯定的な回答の割合を前年度以上にする。〔27年度 94.6%〕 (マネジメント改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

○学力調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を昨年度より向上させる。〔27年度 「寝る」72.0% 「起きる」93.1%〕 (カリキュラム改革関連)

○年度末生徒アンケートにおける、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を年度当初より向上させる。 (カリキュラム改革関連)

【視点 学校に対する関心の高まり】

○学校ホームページの閲覧数を前年度以上にする。〔27年度2月末 23,515件〕 (マネジメント改革関連)

○学校協議会の傍聴人数を20人以上にする。 (マネジメント改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

○平成28年度チャレンジテストにおける平均正答率を府レベル以上にする。 （カリキュラム改革関連）

○中学校3年生での英検3・4級程度の英語力を有する生徒の割合を65%にする。〔現中2 43% 〕 （カリキュラム改革・グローバル化改革関連）

【視点 道徳心・社会性の育成】

○学校で認知したいじめについては、解消に向けて組織的に対応している割合を100%で維持する。 （マネジメント改革・学校サポート改革関連）

○学力調査における、「学校の規則を守っていますか」の項目における肯定的な回答の割合を前年度以上にする。〔27年度 94.6% 〕 （マネジメント改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

○学力調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を昨年度より向上させる。
〔27年度 「寝る」72.0% 「起きる」93.1% 〕 （カリキュラム改革関連）

○年度末生徒アンケートにおける、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を年度当初より向上させる。 （カリキュラム改革関連）

【視点 学校に対する関心の高まり】

○学校ホームページの閲覧数を前年度以上にする。〔27年度2月末 23,515件〕 （マネジメント改革関連）

○学校協議会の傍聴人数を20人以上にする。 （マネジメント改革関連）

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の学校運営全体を通して、安定した教育活動を展開することができた。生徒の生活面において個別の課題は種々あるものの、学校総体としては落ち着いた状態を維持することができた。学力の向上については、昨年に引き続き全生徒に毎日宿題を課す、エブリデイ・ホームワークの実施をはじめ、「教科別『学習の進め方』一覧」の改訂・配付、昨年度の生徒会が策定した「十三中学校授業のルール5か条」の検証など、生徒への働きかけを行ってきた。同時に、教員の授業力の向上をめざし、今年度は全教員の研究授業を学年単位で実施するなど、校内体制を整備してきた。このような様々な取組を実施し、一定の成果を上げたものと考えている。学力調査における直近数年間の平均正答率の向上といった具体的な成果も見られる。また、生徒の物事に取り組む姿勢も前向きになってきており、正門前にも掲げている「いっしょうけん命はかっこいい」をスロ

ーガンに、体育大会や文化祭など学校行事の質も高まっている。今後も継続した取組の中でさらなる成果につながることをめざす。

徳育の推進に関しては、「いじめのない思いやりあふれる集団づくり」を目標に取組を進めている。残念ながらいじめ事案は発生するものの、即座に指導を行い、拡散したり、引きずることがないように対応している。今年度は総務省実施の「いじめ防止対策の推進に関する調査」に協力し、その分析と対応に努めている。また、服装や日常の行動面においてルールを守れるようきめ細かく指導を行いつつ、守れたクラスを表彰するなど自主的に規範意識を高める工夫をしている。

「健康・体力の保持増進」については、体力調査において、昨年よりも全国平均を上回る項目が半分あり、体育指導や部活動指導の成果が現れつつある。また、朝食の摂食率や睡眠時間の確保という問題については家庭の協力が不可欠であり、保護者への啓発を忍耐強く継続しているところであるが、同時に区の政策（ヨドネル）とのコラボレーションにより、例えば本校生徒の描いたポスターを区役所に掲示していただき市民への啓発を図るなど、その内容を具体化し、一段と効果的なものにする。